



秋季における飼養管理について

今年の夏季は例年より気温が高く推移し、人間・牛ともに暑さを感じる日が多かったと思います。そこで、夏季から秋季への変わり目に、注意すべき飼養管理ポイントについてお伝えします。

□良質な粗飼料、ビタミン等の給与

夏季に暑熱ストレスを受けた体を回復させるためには、「栄養」を充足させることが重要です。

- (対策) ・消化の良い繊維、ミネラルやビタミンの給与を心掛ける。
- ・粗飼料の採食量が増えないうちに、濃厚飼料を増給しない。

⇒ルーメン内の発酵が急激に進み揮発性脂肪酸が過剰となった結果、ルーメン内が酸性となってしまいます。それにより、ルーメンアシドーシスの発生が高まってしまうため、まずは粗飼料でルーメンマットをしっかりと形成することが大切です。

□飼料の給与回数、餌押し回数の増加

飼料の少量多回給与や餌押し回数を増やすことで、採食意欲を高める効果があります。

- (対策) ・採食量が低下している場合は、飼料の嗜好性を上げるなど工夫をする。
- ⇒糖質系液状飼料などを使用する etc。

□こまめな敷料の交換

今年は例年よりも9月の湿度が高く推移しています。湿度が高いと、牛床が乾きにくくなり、細菌が繁殖しやすくなります。また、暑熱ストレスにより免疫力が低下しているため、乳房炎が発生しやすくなります。適宜、牛床の状態を確認しましょう！

- (対策) ・こまめに敷料を取り替える。
- ・牛床環境衛生資材の散布を行う。

□牛舎の西日対策

日の傾きが変化する秋においては、西日を遮光するのも有効です（牛のいる位置によって）。

- (対策) ・すだれ、寒冷紗などを設置する。

当センターHP→「乳牛・飼料作物ほか」もご参照ください。



「宗谷農業改良普及センター」で検索、
またはQRコードから